

ひとの手で、ひとの流す汗で、
よみがえる里山

「里山や森はね、人の手が加わることで豊かな自然環境が育まれているんだ」と、熱い思いを語る増田さん。NPO

〇（特定非営利活動法人）里山仕事・しよんた塾の代表として、里山の再生や、環境保全のボランティア活動を通じて郷土を大切にするまちづくりに取り組んでいます。

【忘れていた感覚】

しよんた塾の命名は、活動拠点である金谷地区の神谷城にある小字塩ノ田が由来。「昔は、棚田になっていて、そこそ豊かな生態系をしていたと聞いていましたが、時代が流れ、休耕田になってしまっただけからは、草が覆い茂って…」毎月の活動拠点の塩ノ田で雑木林の下草刈りや、棚田を一部畑にして、季節の野菜を作ったのしんでいます。「林に日が差し、ヤマユリが咲くようになり、コナラにはクワガタも住むようになりました。私たちが汗を流し、そして都

市生活の中で忘れてきたカメラやナタ、ノコギリの手わざを覚える楽しさは格別で、元気を与えてくれます」

【山より身近な森】

ルナラ地域を目指したほどです。年齢を重ねると、危険な山に行くことができなくなり、それならば「森」に係わりを持ち、社会貢献をしたいと思うようになったのが「しよん

も携わっています。「間伐作業を行ってあげば、5年から10年で、立派なヒノキに育っていきます。ぜひ、子どもたちのために使ってほしい」と、思いを馳せています。



NPO 里山仕事・しよんた塾代表
増田 宜春さん（金谷清水）

【里山づくりと人づくり】

しよんた塾のメンバーは40歳代後半から70歳代前半までの男性15人。毎月の塩ノ田での整備活動のほか、4月と11月には、諏訪原城跡のスギ・ヒノキ林の間伐作業、11月頃には牧之原公園のカタクリ群生地の手刈り作業、6月頃には金谷坂石畳脇の除伐作業など、地域貢献活動にも力を注いでいます。

里山の再生と同じように増田さんが取り組んでいるのは山の再生。山登りが趣味という増田さん。昭和51年6月には、仲間たちとヒマラヤ山脈の6500mの未踏峰ミアー

た塾」との出会いでもありました。平成9年から行っている緑化推進協会の学校林活用事業では、約2haある初倉中学校学校林のヒノキの間伐作業に



諏訪原城跡での間伐作業



Shimadian File #23